

柏市議会議員

柏にパワーを
ここが原点

吉田進通信

Vol.3
2016.3



〒277-0054 千葉県柏市南増尾1-23-50 TEL・FAX 04-7172-0510
携帯 080-3385-2396 E-mail yoshida.susumu.2941@gmail.com

議会報告のご案内

柏市議会平成28年第1回定例会(2月26日(金)～3月22日(火))開催され、私は3月11日午後3時30分に一般質問しました。この日の5年前、3月11日午後2時46分に東日本大震災が発生しました。亡くなられた方やご家族様にお悔やみを申し上げて祈りを捧げました。未だ多くの行方不明者がいます。1日も早くお身内のもとに戻られることを願っております。そして、復旧、復興が果たされ、平穏な日々が訪れますよう、お祈り申し上げます。

自然災害は何時起きるかわかりません。最小限の被災とするための対策をしなければなりません。市長には貧困対策の緊急性を虐待等も複雑に密接に関係することが多々あるために関連して質問しました。

今後も「住んでよかった。住み続けたい。」と思える街づくりに取り組みます。

柏市議会議員 吉田進 市政報告

◎医療行政

- 地域周産期母子医療センター認定、県下9医療圏の内2番目の人口(135万人)を有する東葛北部医療圏(柏市を含む)に地域周産期母子医療センターは無く、長く要望してきました。この度、松戸市立病院が認定されたことは喜ばしいことです。
- 周産期母子医療の柏市の現況はNICU(新生児特定集中治療室)MFICU(母体胎児集中治療室)の整った病院が無く充実が必要と要望した。
- 小児救急医療体制についても救命率の高さが指摘されている、PICU(小児集中治療室)の充実が必要です。
- 骨髄移植をする際、健康診断や骨髄採取のため凡そ4～5日の入院が必要です。一部企業は休暇制度があります。しかし休業補償の無いことで、ドナーが見つかったも、移植を必要とする約6割にしか、実際に骨髄移植が行われない要因の一つになっています。助成の検討が必要と要望した。
- 「防ぎえた死」を招かない為にも医療現場への支援を、また病院前医療として救命効果の高い「ドクターカー」の導入も検討課題と要望しました。414,531人の人口を有する柏市の医療の充実を計らなければなりません。

◎福祉行政

- 病児・病後児保育は働きながら子育てする世代には不可欠です。要望が実り、1所増設になりました。地理的にもう一か所の増設が必要と要望した。
- 認知症・精神障害者の方は家族も含め、多くは病気を認める

ことが出来ず、地域の中に埋もれてしまい、医療に繋がり難い現状を寄せられています。そこで精神科訪問診断・精神科訪問看護の更なる整備が必要と要望した。

- 介護人材等の確保は緊急課題です。人材不足は報道等でも取り上げられている通り対策が必要と確認した。
- UDトーク(話し言葉を文字に変換してタブレットで見ることができる)・コミュニケーション(本人のみが聞こえるスピーカー)は難聴者や聞こえ難い高齢者の方々に有効なコミュニケーション手段です。窓口への設置をと要望した。
- 中核市は児童相談所を設置することができます。柏児童相談所は県の施設で担当区域は、柏市・松戸市・野田市・流山市・我孫子市と広範です。虐待件数の増加、また子供を殺める事件の発生等の現状の対応として、国の助成も検討しているようです。柏市児童相談所の開設を要望した。

◎道路行政

- 交通渋滞の心配が国道16号線の大型店開設に伴い{(高柳・藤ヶ谷新田線と船取り線の交差点)(白井流山線の高柳交差点)現在も渋滞(藤心から船取り線の出口は一部整備されていない)}懸念し対策をと寄せられ対策を確認した。

◎環境行政

- 指定廃棄物(高濃度放射性物質を含む)の仮保管は地域住民との話し合いで、「あくまでも暫定であること」「最終保管では無い」ことを担保とした約束のもと成り立つことを確認した。

裏面へ続く→